



チャレンジ

柿岡小学校だより

令和3年12月10日発行

第9号

学校教育目標 「主体的に学び たくましく生きる 心豊かな児童の育成」

茨城新聞に掲載されました！

6年生が実施しているふるさと学習（総合的な学習の時間）の様子が本日付の茨城新聞に掲載されました。

2021年(令和3年)12月10日 金曜日

茨城

旧博物館 見学わくわく

1960年代に建てられた旧「柿岡考古博物館」で、埴輪の実物に触ってみる貴重な体験をする柿岡小の児童ら。石岡市柿岡



石岡・柿岡小の校庭内

石岡市柿岡の市立柿岡小（飯塚信久校長、児童180人）で11月30日、6年生が校庭内にある建物で、もう何十年も利用されていない旧「柿岡考古博物館」の中に入り、地元の古墳から出土した埴輪の実物に手で触ってみる授業が行われた。「昭和40年代」にタイムスリップしたような空間で、児童たちははわくわくした様子を見せた。

実物埴輪、触れて体感

授業は、市教委が独自に設けている「ふるさと学習」の一環。この日は「古墳時代の柿岡」をテーマに、同教委文化振興課の職員で、埋蔵文化財担当の谷仲俊雄さんが講師となり、最初に教室で「古墳とは何か」「どんな形があるか」といった知識を学んだ後、プールの脇にある「博物館」へ足を運んだ。同博物館は、鉄筋コンクリート造り平屋で、建築面積約100平方メートル。古びた倉庫のような外観の建物だ。市教委によると、もともとは、明治時代に柿岡で発掘された「丸山古墳」の顕彰活動を行う団体が、旧八郷町内の埋蔵文化財を一括展示する施設として、県と町からの助成を受けて、1967年に開館した。当時は県内でも先進的な埋蔵文化財の展示施設だったが、顕彰会の中心となる担い手がいなくなり、管理が難しくなって閉鎖されたという。谷仲さんが、鉄の扉を開けると、児童たちは建物の中へ。細長い展示スペースで、照明はあるが、外光が入る窓もなく薄暗い。両壁面にガラスの引き戸が付いた陳列ケースがあり、スペースの中央にも陳列ケースが置かれている。ガラス戸の奥の台には「丸山4号墳」「西町古墳」などの出土遺物が陳列されている。人物や円筒の埴輪もある。児童たちは、埴輪の一部を手に取り、肌触りや重さなどを感じていた。同博物館をめぐると学習に活用することを思い立ち、市教委に働きかけたのは飯塚校長。谷仲さんは、東日本大震災の時に「扉を開けて」中を確認したが、その後はこの10年、ほぼそのままだったという。授業を受けた6年生は約30人。内藤優君(12)は「建物に何が入っているのかなと前から思っていた。昭和40年代のものとは思えないほどきれいだった」。萩原若菜さん(12)は「埴輪に触ったり、持ったりすることができてとてもいい体験になった。歴史についてもっと勉強したくなった」と話した。

(佐川友一)